

2015年度 関西学院中学部 学校評価を終えて

関西学院では、幼稚園から大学院まで連なる総合学園である強みを生かし、お互いに連携をとりながら整合性のとれた学校評価を実施するため、接続する学校の教職員でもある先生方に、専門的な視点からのご意見をうかがうことで、第三者評価と学校関係者評価の両方の性格を併せ持つ「第三者評価／学校関係者評価」を導入しています。この度、中学部の学校評価が関西学院評価推進委員会において承認されましたので、ホームページ上で公表いたします。

2015年度は、昨年に引き続き「教育課程・学習指導」「生徒指導」「保健管理」「保護者との連携」「キリスト教主義教育の実践」「特色ある教育の実践」を評価項目に設定し、評価の実施にあたっては、各項目について生徒・保護者・教員にアンケート調査を行い、それぞれの立場からのご意見を聞くことによって客観性を確保しました。アンケートの回収率は、生徒 99.0%、保護者 67.7%、教員 91.7%となっております。

今年度も各項目について、まず現状を説明し、アンケートの集計結果も参考にしながら評価・分析を加え、今後の改善に向けた具体的方策を示し、自己点検・評価としました。また、初等部、高等部、大学の責任者に、ありのままの中学部の教育を知っていただき、そこでのご意見も合わせて中学部の学校評価としてまとめています。

関西学院中学部は学校評価を通じて自らその課題を探り、その課題に向き合って改善することによって、より内容のある教育活動等を生徒に提供し、また、その結果を社会に公表することによって信頼を高め、課題意識を共有していく所存であります。

2015年度中学部の学校評価を項目別にまとめたものを、以下に掲載いたします。

今後とも、各部門において改善に努めていく所存ですので、どうぞよろしくお願いいたします。

2016年3月11日
関西学院中学部
部長 安田栄三

学校評価

教育理念・使命・目標

中学部がめざす教育の目標

- キリスト教に基づいた伝統ある人間教育を根本に置いて、「感謝・祈り・練達」の教育理念を大切に、人の痛みをわかろうとする人間、他者を尊重し将来に夢を持って社会に貢献できる人間を育てる。
- 建学の精神を体得した生徒を育てることにより、将来高等部、大学、さらに社会人として、リーダー的役割を果たせる人間を育てる。

2015年度の評価項目

- ①教育課程・学習指導、②生徒指導、③保健管理、④保護者との連携、⑤キリスト教主義教育の実践、⑥特色ある教育の実践、以上の6項目。この6項目は2013年度より継続して取り上げている。

2015年度の評価項目とテーマ、自己評価、目標、具体的な取組の状況とその効果に対する評価、今後の方策

評価項目 【テーマ】	教育課程・学習指導 【教育課程についての教員間の共通理解と連携】	自己評価	A
目標	教員による教育課程の全体像の理解		
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> ●従前より「学習ガイドブック」を作成し、各教科目標、学習法等について生徒に対するガイダンスを行うとともに、教員間でも教科を越えて中学部としての学びの基本姿勢への共通理解が得られるよう企図している。 ●次年度は教科書採択の年であるが、それに当たって、結果のみでなく採択過程や採択理由を全教員に周知している。 ●学年団での話し合い等を通じ、生徒指導上の問題とともに、その都度の教科授業の概要、また生徒への課題等の情報交換を日常的に行っている。 ●学力推移調査、定期試験の結果等の分析を行い、全教員で情報を共有している。 ●ここ数年、教員の肯定的評価が85%程度で推移していたものが、本年は約10%程度低下している。母集団となる教員数から見て、若干名の回答でこの程度の変化は起こるが、指導要領の改訂、本校のカリキュラム改訂から数年経ち、それが安定期を迎えていることも要因と考えられる。 		
今後の方策	<ul style="list-style-type: none"> ●学期に一度行われている指導会議や、夏の教育会議等で、各教科、現行の教育目標、内容、到達度等を繰り返し示し、他教科からの意見・助言等を積極的に取り入れていけるような環境を整備する。 ●学力推移調査、定期試験等の結果分析を通じ、生徒らの学習上の問題点について教科を越えて、議論・研究する機会を設ける。 		

評価項目 【テーマ】	教育課程・学習指導 【生徒の学力・体力の的確な把握】	自己評価	A
目標	外部テスト導入などを通じた学力のより客観的な把握／教員による学力や体力評価についての理解向上		
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> ●本年で学力推移調査を導入して6年目となる。それにより、国数英3教科について生徒、教員とも他校との比較を通じて、より客観的な学力の確認が可能となっている。 ●英語においては3学期にGTECを実施し、3技能について客観的学力把握が行 		

	<p>われている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●体育科において、各種運動能力テストを実施し、生徒の体力把握に努めている。また全国体力・運動能力、運動習慣等調査等の資料の活用を行い、より客観的な運動や体力能力の把握につとめている。 ●アンケート結果では生徒(83.2%)・保護者(91.2%)・教員(87.9%)ともに肯定的評価が高い。
今後の方策	<ul style="list-style-type: none"> ●引き続き、客観的な学力・体力の把握に努めるとともに、それを生徒、保護者に的確に知らせていく。 ●社会科、理科に関しては各種外部試験が一長一短で、適当なものが少ないが、客観的学力評価を行うため、今後は5教科に広げていくことを検討する。

評価項目 【テーマ】	教育課程・学習指導 【各教科の特性に応じた授業の工夫】	自己評価	A+
目標	教員自身による担当教科の特性の理解／より質の高い授業を目指しての教員による不断の研究／授業研究の成果を活かしての授業への不断の創意工夫		
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> ●全教員に対し、一定の自己研修の時間と研究費用を確保し、教科に対する素養や教授力の向上を目指している。 ●3教科では演習時間を設け、応用的学力の向上を目指している。また、小試験を一定間隔で実施し、基礎学力の定着を図っている。さらに英語（特にリスニング・スピーキング分野）で自主教材を開発し、実用的な英語力の習得に寄与している。 ●読書科においては、図書館の有効活用、その他情報の収集・整理法を学び、各種レポート作成、プレゼンテーションを行う。それを通じて、教科横断的な問題解決能力、さらには問題「発見」能力の育成を行っている。 ●すべての教科において、学習指導要領を踏まえつつ、発展学習、応用学習の時間を確保している。 ●アンケート結果では、教育実施側の教員はやや謙抑的に自己評価をする傾向にあるが、生徒は約80%が肯定的に評価している。 ●生徒や保護者の多様化に伴い、学級経営、生徒指導、クラブ指導等、教科教育以外の負担が年々増加している。そのため、教材研究、自己研鑽の機会が否応なしに減少しているのが現実であり、それが教員の肯定的評価減少にもつながっていると考えられる。 		
今後の方策	<ul style="list-style-type: none"> ●直接的教授法の向上や教材開発に加え、全教員が自身の担当教科全般、更には他分野への素養を深められるよう研修の機会を設ける。 ●教員の教材研究、自己研鑽の機会を確保するため、校務の効率化を図る。 		

評価項目 【テーマ】	教育課程・学習指導 【個々のニーズや興味関心に応じた授業展開】	自己評価	A
目標	知的好奇心の喚起に留意した授業の展開／補習など特別な学習機会の提供／中学部と高等部との連携		
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> ●前項目とも関連するが、各教科、特に5教科においては必ず発展的・応用的学習内容を取り扱い、興味関心のある生徒の要求に応える努力をしている。ただし、この2、3年、生徒の学力差が大きくなる中、成績上位の生徒とそうでない者の間で、授業に対する要求度や理解度、満足度に違いが生じているのも否めない。 ●到達度の低い生徒のために、特に数学・英語において週1～数回、定期的な補習を行っている。また、夏期休暇中には教職教育研究センター、大学生ボランティアの助力を得て数学、英語の学習会を行っている。 ●学習到達度の低い生徒は自宅学習の習慣が確立していない傾向があるため、各学 		

	<p>年、各担任が定期試験前には放課後に学習会を開き、自学自習の時間を作っている。</p> <p>●アンケート結果で、教員は知的好奇心の喚起に留意しているとの回答が、当然ではあるが93.9%と高い。</p> <p>●補習の機会が適切に提供されているかに関しては、生徒の88.5%、教員の81.8%が肯定的評価をしているのに対し、保護者は70%に止まっている。これは補習に直接関わる側と、保護者との評価の違いもあるが、実際、学力差が大きくなっている今、学習到達水準の確保のために、習熟度の低い生徒への施策は喫緊の課題である。さらに、補習対象者においても、その学力に大きな差があり、それに応じたクラス分けも必要となっている。しかし、人的・財政的裏付けがない現状では、限界がある。</p>
今後の方策	<p>●知的関心が高く、学力の高い生徒の要求に応えられるよう、また到達度の低い者の学力保証の観点から、教科内容を精査するとともに、分割授業や習熟度別授業の導入の方策を探る。</p> <p>●補習に関しては、種々の制約はあるが、実施回数とともに、学力に応じて分割して行うことも視野に入れて検討する。</p> <p>●教科学習のみならず、学校全般に対する生徒保護者の満足度は例年通り高い水準を維持している(生徒保護者ともに90%)。これは教科教育、特別活動等への教育活動全般への総合評価であるので、そのバランスの中で教科学習のあり方を模索していかねばならない。</p>

評価項目 【テーマ】	教育課程・学習指導 【課外活動の充実】	自己評価	A+
目標	生徒会など自治活動の充実／クラブ活動など課外活動の充実／課外活動が正課(学習)を妨げていないことの徹底		
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	<p>●生徒会、クラブ活動、ホームルーム活動を通じて自治意識の向上に努めている。学級での意見が生徒会を通じ、学校生活に反映される場面も設定している。</p> <p>●男子校の時期と比べ低下したものの、クラブ入部者は各学年95%以上であり、運動部・文化部ともにクラブ活動は活発である。</p> <p>●学習時間の確保のため、クラブ活動は夏期18時まで、冬期は17時30分までとし、夏期休暇中は原則クラブ活動は18日まで、冬期休暇中は原則停止としている。また、定期試験1週間前はクラブ活動を停止している。</p> <p>●クラブによっては、成績不審者の活動参加を一時停止し、学習機会の確保を図っている。</p> <p>●「学校が楽しい」等の評価が極めて高い一因は明らかに課外活動の充実によるところが大きい。</p>		
今後の方策	<p>●生徒会の自治意識の向上については、今後とも継続的に現行の生徒会運営を行っていく。</p> <p>●一部、学習到達度の低い者については、クラブ活動に力を割くことが、学習の妨げになっている面もあるため、クラブ活動への参加形態を検討していく。</p>		

評価項目 【テーマ】	生徒指導 【基本的生活習慣の確立】	自己評価	A
目標	挨拶や時間厳守などの基本的社会マナーの指導／整理整頓や環境美化の指導		
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	<p>●挨拶、時間厳守、身だしなみ等の基本的社会マナーについては、生徒指導部を中心に全教員で重点的に指導している。</p> <p>●基本的社会マナーについて、生徒・保護者ともに肯定的評価の割合が高い。</p>		

	<p>●教員のアンケートで肯定的評価が低く課題とされている「整理整頓や環境美化に努めさせている」の項目は、この3年間で大幅に改善されてきた。しかし今年度は肯定的評価が57.6%と大きく下がった。この3年間は暫定的に「ポスター委員会」を組織し、生徒の作成したポスターを掲示することで美化意識の啓発活動を行ってきた。今年度は「ポスター委員会」を組織せず、風紀美化委員会からの呼びかけのみにしたことで、生徒の美化意識向上が図れなかったことが原因である。</p>
今後の方策	<p>●基本的社会マナーについては今後も全教員で重点的に指導していく。 ●整理整頓や環境美化の指導については、来年度「ポスター委員会」を組織し風紀美化委員会と連携して生徒の美化意識向上を図ることとする。</p>

評価項目 【テーマ】	生徒指導 【自主自律の精神の育成】	自己評価	A+
目標	HR（学級活動）における自主自律の精神の育成／学校行事における班活動などを通じた自主自律の精神の育成		
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	<p>●各行事において、生徒会役員がリーダーとなり委員会を組織してその企画・運営を自主的に行っている。 ●代議員会および各委員会活動の活性化に重点を置き、生徒会活動およびHR活動を中心に自主自律の精神を育てている。 ●保護者のアンケート結果では肯定的評価が89.7%と高い。一方で生徒の自主的な活動の陰で教員がきめ細かく指導・補佐しているという部分もあり、教員では72.7%と若干低い。</p>		
今後の方策	<p>●今後も各行事において、生徒会役員がリーダーとなり委員会を組織してその企画・運営を自主的に行わせ自主自律の精神を育成していく。 ●生徒会・委員会活動をさらに活性化し、生徒に自ら判断し行動できる力を身に付けさせる。</p>		

評価項目 【テーマ】	生徒指導 【問題行動への対応】	自己評価	B
目標	生徒の問題への対応についての教員間での共通理解／生徒の問題行動の早期発見／問題行動に対しての適切な指導・訓戒		
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	<p>●生徒の問題行動に対しては、「迅速・適切・誠実」を念頭におき、当該学年団と生徒指導部が密に連携しながら対応している。 ●「生徒の問題への対応について教員間で共通理解がある」の項目で肯定的評価が毎年低下している。これは、クラス数の増加に伴い教員数が増えたことと会議日が隔週になったことで教員間のコミュニケーションが難しくなったことが背景となっている。 ●「問題行動などについて適切に対応している」の項目で保護者の肯定的評価のポイントが若干低い。特に3年男子が低く、生徒75.1%、保護者67.7%となっている。</p>		
今後の方策	<p>●教員間での「情報共有方法の構築」「生徒指導についての意思統一」について指導部内に検討会議を設けて対応策を策定していく。 ●今年度は問題行動を指導した後に改善が見られないケースが見受けられた。指導部と学年で改善が見られなかった指導事例について検証を行い指導方法の改善を行う。</p>		

評価項目 【テーマ】	保健管理 【心身の健康管理】	自己評価	B
目標	健康診断の定期的な実施と事後措置／健康状態の把握／健康相談／感染症の予防		
具体的な取組の 状況とその効果 に対する評価	<p>●生徒たちが健康で安全な生活を送ることができるよう健康診断を実施し、学校医の指導のもと事後措置・管理を行っている。</p> <p>●共学化以後、保健室の来室者は共学以前の約4倍と多い状態が続いている。特に心の問題を体で表す生徒、人間関係から不調をきたす生徒など、心理的理由による来室が増えている。</p> <p>●生徒一人ひとりを理解し、支援していくことは簡単にできることではないが、保護者、担任、カウンセラー、養護教諭が情報を共有しながら、生徒の支援に取り組み、個々の課題をサポートするよう努めている。その結果、昨年度と同様、健康診断・事後措置の実施、健康状態の把握、教員間の情報の共有・連携について生徒、保護者、教員ともに評価を得ることができた。</p> <p>●2014年度の課題であった生徒の心身の健康相談の場について、『保健だより』や掲示物を通じて発信をしてきたが、相談できる場所があると答えた生徒が65.2%にとどまっており、更なる方策を立てる必要性を感じている。</p>		
今後の方策	<p>●引き続き『保健だより』、掲示物を用いて生徒、保護者、教職員へ情報発信していく。加えて、健康相談日を設け個別に相談できる時間を確保する。</p> <p>●今後も開かれた保健室をめざし、生徒たちが相談しやすい場所となるような雰囲気作りに努めていく。</p>		

評価項目 【テーマ】	保健管理 【怪我・急病発生時の対応】	自己評価	A
目標	怪我・急病発生時の迅速で適切な対応		
具体的な取組の 状況とその効果 に対する評価	<p>●怪我・急病発生時には迅速に、適切に処置が行えるよう努め、病状の報告や対応については保護者と連絡、相談しながら行うよう心掛けており、生徒、保護者、教職員共に評価を得ることができた。</p>		
今後の方策	<p>●怪我・急病発生時には適切な処置に努め、病状の報告や対応について保護者と連絡、相談しながら行っていく。</p> <p>●怪我をした際にはその要因を生徒と共に振り返り、怪我の予防について考え、生徒の意識を高めていく。</p>		

評価項目 【テーマ】	保護者との連携 【学校運営についての保護者との協力状況】	自己評価	A
目標	PTAと協力した学校行事の運営／教育内容に関する保護者との意見交換		
具体的な取組の 状況とその効果 に対する評価	<p>●全校行事のサポートとして体育大会、文化祭での中学部PTAグッズ、飲食物等の販売、新入生保護者を迎える各地区歓迎会の開催がある。その他にもPTA聖書を学ぶ会、PTAだよりの活動など独自の活動を展開している。</p> <p>●ただ、アンケートでは、教育内容に関する保護者との意見交換があまりできていないという結果が出ている。</p>		
今後の方策	<p>●教育内容に関する保護者との意見交換ができる時間を、これからクラス懇談会等の中で積極的に設けていく。また、意見が出しやすい雰囲気をつくっていく。</p>		

評価項目 【テーマ】	保護者との連携 【保護者との懇談の実施やP T Aとの協議会の運営状況】	自己評価	A
目標	P T A幹事会等の適切な開催／クラス担任と保護者との面談の実施／クラス・クラブ・委員会等の保護者との懇談の実施		
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> ●年5回の常任幹事会、幹事会を開催しており、五役会も新しい懸案事項が出てくるとに開催している。 ●年4回開催されるP T A集会では、全校集会が終われば次に学年ごとの集会、最終的には必ずクラス集会で懇談をするようにして、保護者が担任に対して喋りやすい雰囲気をつくっている。また、クラス担任によるクラスの保護者面談も、1学期の最初や夏休みを中心に全学年・全クラス、一人30分程度の面談を行っている。 		
今後の方策	●これまで通り、保護者と多くの時間を共有しながら、共に考え、話し合える取り組みを継続して行っていく。		

評価項目 【テーマ】	キリスト教主義教育の実践 【キリスト教主義教育の理念の共有】	自己評価	A
目標	教員間でのキリスト教主義教育の理念の共有／キリスト教主義的人間理解を基にした日々の教育活動		
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> ●キリスト教主義教育は全学的な教育プログラムとして展開している。その理念を生徒、保護者、教職員が共有できるように機会を設けている。特に、保護者に対してはP T A集会の礼拝や「聖書を学ぶ会」等でキリスト教主義教育に接する機会を設けている。 ●生徒に対する質問「日々の学校生活からキリスト教の精神が伝わってくる」の積極的評価は81.5%（前年度は83.5%）、保護者に対する質問「中学部は、キリスト教主義教育を適切に行っている」の肯定的評価は95.7%（前年度は95.5%）といずれも継続的に高い比率であることから、その理念の共有が定着していると分析できるが、それに対し、「教員間でキリスト教主義教育の理念を共有している」の質問に対する肯定的評価が60.6%と低くなっている。 		
今後の方策	<ul style="list-style-type: none"> ●創立当時から受け継がれ、建学の精神であるキリスト教主義教育は、本校の原点であると共に目標でもある。その精神を堅守しつつ、時代を切りひらくキリスト教主義教育のあり方を常に検証し、具体的な教育プログラムを展開していかねばならない。 ●特に新任の教職員に対して、その理念を共有するための研修への参加の呼びかけや独自のプログラムの設定を推進していかねばならない。 		

評価項目 【テーマ】	キリスト教主義教育の実践 【キリスト教主義教育の推進】	自己評価	A+
目標	学校の重要な柱としての礼拝の遵守／生徒のキリスト教的人間理解を育成するためのプログラムの実施		
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> ●キリスト教主義教育の実践として、礼拝が学校の重要な柱に据え、礼拝を中心としてキリスト教主義による人間理解を育成するプログラムが実施されている。 ●礼拝の奨励者には教員に加え、学外の各分野からも多くの奨励者を招き、いのちや人権などをテーマにした幅広い主題で講話を聴いている。また、生徒たちが自主的に取り組む生徒礼拝や早天礼拝も定着している。生徒たちが積極的に礼拝に対してかかわる姿勢が見られる。 ●生徒に対する質問「礼拝では、学内外の様々な人の話を聴くことができる」の肯定的評価は92.3%（前年度は94%）と生徒たちの礼拝への思いは学校生活の一部 		

	として日常化していると言える。また、教員に対する質問「中学部は、礼拝を重要な柱として守っている」の肯定的評価は 84.8%（前年度は 96.8%）と前年度から下がっているとは言え、高い比率である。
今後の方策	<ul style="list-style-type: none"> ●人権、平和、道德教育などを網羅した形で、より広い分野での講話を聴くことができるように礼拝のプログラムを計画する。 ●共学化に伴って始まったクラス礼拝や学年礼拝もより充実した展開を考える。

評価項目 【テーマ】	特色ある教育の実践 【読書・図書館教育】	自己評価	A+
目標	読書生活の推進と実態把握／図書館を活用した総合的・教科横断的な学習活動の展開／読書・図書館教育に特化した学校行事の実施		
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> ●設備の整った図書館の活用を勧めるだけでなく、本校独自の推薦図書リストの作成、読書記録の推奨、国語科・読書科による授業前の 10 分間読書の実施などを通じて、読書習慣の定着を図っている。 ●読書科の授業を通じ、図書館の利用、情報の獲得・整理・活用・表現の方法や技術を学習している。 ●各省庁や法人・企業などから案内のある募集型のレポートや作文などについて読書科が窓口になり、広く生徒に情報を伝達し、生徒がどれかひとつは応募作品を提出する形で、文芸コンクールを実施している。各コンクールに応募した生徒の中から今年度も約 30 名の受賞者を輩出し、校内でも表彰を行っている。 ●読書・図書館教育については肯定的評価が 90%を越えるものもあるなど、生徒・保護者・教員三者ともに高い評価をしている。 		
今後の方策	●唯一評価が芳しくなかったのは、教科横断的な学習活動の展開の項目である。読書科の授業における、修学旅行や校外学習などの体験型学習の事前、事後学習に加え、それ以外の教科でも横断型の学習活動の展開の研究が必要である。		

評価項目 【テーマ】	特色ある教育の実践 【芸術教育】	自己評価	B
目標	音楽・美術を中心とした芸術教育による生徒の豊かな感性の育成／音楽・美術を中心とした芸術教育による生徒の自己表現能力の育成		
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> ●通常の音楽・美術の授業に加えて、秋に行われる文化祭では、各クラスが合唱や器楽演奏を披露する音楽コンクールや各学年ごとにテーマを設定し生徒全員が作品制作にとりくむ美術展などを開催している。 ●この項目においては生徒、保護者、教員ともに肯定的評価が 80%に満たなかったが、その大きな要因は文化祭時の音楽コンクールにあると考えられる。 		
今後の方策	●音楽コンクールは従来クラス合唱を行い、生徒・保護者の楽しみとする行事の一つであった。しかし今年度は下級生は器楽演奏を行った。今年度の評価を受け、今後この形を続けるのか、従来の形に戻すのか、また戻すならばどのような形がとれるのか、検討中である。		

評価項目 【テーマ】	特色ある教育の実践 【キャンプ・体験的学習】	自己評価	A
目標	キャンプ・体験的学習の、教員全員・学校全体による実施		
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> ●新入生には入学直後に関西学院千刈キャンプで、2泊3日のオリエンテーションキャンプを行っている。 ●2年生は夏休みに関西学院の所有する無人島で4泊5日のキャンプを行い、水も 		

	<p>電気もない場所での生活体験をさせている。</p> <p>●いずれのキャンプも上級生や卒業生がリーダーとして後輩を導いていくシステムをとっており、事前ミーティングからキャンプの最後まで、教員や先輩がともに関わっている。</p> <p>●生徒・保護者・教員ともに90%以上の高い肯定的評価を受けている。</p>
今後の方策	●青島キャンプにおいては現行4泊5日という期間が、キャンプにおけるプログラムの展開に妥当な長さかどうかの再検討を考えている。

(自己評価)

A+=テーマに対する目標を達成した。

A=テーマに対する目標を概ね達成した。

B=テーマに対する目標の達成に向けた計画や方策などを実行しているが、達成にはまだ時間がかかる。

C=テーマに対する目標の達成に向けた計画や方策などを実行していない。

総合評価

●教育に関しては、内部の授業内容の充実はもちろん、学力推調査や英語のGTEC、体育の運動能力テストなどを通じて、対外的にも通用する自信の持てる学力、そして人間力をつけさせることを大切にしてきた。中学部が一番大事にしている日々の授業の向上をこれからも課題とし、今後もしっかり取り組むたい。また中学部生活の大きな部分を占める課外活動では、生徒たちが生き生きと自分やチームのために頑張っている姿を見ることが出来る。それぞれの活動の充実により、楽しい学校づくりを引き続き実現していきたいと考える。生徒指導面に関しては、保健室やカウンセラーの教員とお互い情報交換して、少しでも生徒にとって居心地の良い学校であるように、成長を実感できる場所であるように、生徒たちのことを理解できるよう、今後もより努める必要があるだろう。

●キリスト教主義の実践について、毎日の礼拝を大事にしている姿勢が生徒たちにも伝わっていることを、伝統として守っていききたい。また特色ある教育の実践としては、読書、図書館教育では、社会人になっても通用する、将来を見据えての学びが実践されている。生徒たちの主体的な学びの成果は、文字数2万字にせまる卒業レポートのみならず、文芸コンクールにおいても多数の表彰者を出していること、及び肯定的評価が90%を超えていることからわかる。さらにキャンプや校外学習、長崎への修学旅行などの体験学習での本物との出会いを通じて、より生徒たちが人間的に成長できるように、教員共々、日々生徒たちと過ごせる時間を大事にしたいと考える。

●中学生時代の三年間は、生徒たちが様々な壁にぶつかりながらも、大きく成長する時期である。良いところは思いっきり褒めて、間違いがあればしっかり向き合って、少しでも共に成長できるように努めたい。中学部は盛りだくさんの、ある意味ハードな教育であるが、困難や苦勞を乗り越える経験も、人として生きるために大切となる。将来生徒たちが社会に必要とされる人間として生きてゆけるように、教職員一同、力を尽くしたい。

2015年度の評価をふまえて2016年度に予定している評価項目、テーマ等

●評価項目については、①教育課程・学習指導、②生徒指導、③保健管理、④保護者との連携、⑤キリスト教主義教育の実践、⑥特色ある教育の実践、以上の6項目を継続して取り上げ、課題をはっきりさせて取り組むたいと願っている。

第三者評価／学校関係者評価

- 全体として、様々な観点からの多くの目標を設定していただいている点は、評価できます。このような評価を通じて、色々な評価項目の改善を進めていただければと期待します。
 - 「教育課程についての教員間の共通理解と連携」については、教員の肯定的評価の割合が低下したとのことですが、様々な会議等、教科を越えて、議論・研究する機会を設けていただくことを期待します。
 - 「生徒の学力・体力の的確な把握」については、外部テスト導入によって他校との比較を通じてより客観的な学力の確認をしておられることは、評価できます。また、そのような確認を通じて明らかになった課題があれば、それに対する方策を、考えていただければと思います。
 - 「各教科の特性に応じた授業の工夫」については、各教科で様々な工夫、例えば、読書科の図書館の有効活用などが注目に値し、高く評価できます。今後とも、教員の教材研究、自己研鑽の面で改善を行っていただければと思います。
 - 「個々のニーズや興味関心に応じた授業展開」については、学力の違いなどを考慮し、学力に応じた分割授業などを試みていただければと期待します。
 - 「課外活動の充実」については、様々な課外活動を通じて生徒の自治意識が向上している点は、評価できます。クラブ活動と勉学とのバランスについては、今後とも、注意を払っていただくことが望まれます。
 - 「基本的生活習慣の確立」については、基本的社会マナーについての生徒・保護者の肯定的評価の割合が今年度大きく下がった要因を確認していただき、それに対する方策を策定・実行していただければと思います。
 - 「自主自律の精神の育成」については、代議員会・各委員会活動を通じて生徒の自主自律の精神を育てておられることは、評価できます。
 - 「問題行動への対応」については、生徒の問題行動に対して「迅速・適切・誠実」で臨むことは重要です。生徒の問題行動に関する教員間の情報共有、生徒指導についての意思統一を達成し、対応していただくことを期待します。
 - 「心身の健康管理」については、生徒たちが相談しやすい環境を整えていくことが期待されます。
 - 「学校運営についての保護者との協力状況」については、保護者が意見を言う機会や雰囲気をつくっていかれることが期待されます。
 - 「保護者との懇談の実施やPTAとの協議会の運営状況」については、保護者と共に考え、話し合える取組を継続していただくことが期待されます。
 - 「キリスト教主義教育の理念の共有」については、生徒と保護者の肯定的評価が高い一方「教員間でキリスト教主義教育の理念を共有している」の肯定的評価の割合が相対的に低いことを考え、今後の方策を実施していかれることが望まれます。
 - 「キリスト教主義教育の推進」については、アンケートを含む様々な観点から、高く評価されます。今後の方策を実施していただくことが期待されます。
 - 「キャンプ・体験的学習」については、生徒・保護者・教員ともに非常に高い肯定的評価であることは、非常に高く評価できます。今後とも、改善の余地があるのならば、改善していただくことを期待します。
- 中学部には、キリスト教主義による「人間が抜け落ちることなき」教育活動があります。生徒主体の行動や活動推進は、キリスト教主義教育の良さを社会に向けて広く発する役割を担っていることが伝わってきます。
- 実態に即した教育課程・学習指導展開は、生徒と共に作り上げる質の高い授業になり、結果、支持評価につながっています。課外活動は、一人ひとりの大きな励みであり、個と集団が「生かされる場」になっています。こうした親和力が生活習慣の確立、自主自律の精神を支える泉のような役割を担い、心身の健やかさを生み出していると思えます。連動した成果は、今後より保護者の信頼を得て、ダイナミックな学校経営につながっていくのでしょうか。特色ある教育の実践、『六本柱』は明確で力強い

ものです。六十数年間、吟味し練られてきた努力の賜物でしょう。さらに六本柱が互いに共振し、一体感が出ればより深いものとなります。伝統は常に新しい土壌に芽吹きます。

●教育課程・学習指導の観点では、共学化が完成して2年目を迎え様々な取組みがされる中で、生徒・保護者ともに高い肯定的評価を示しています。通常教育課程に加えて、数学・英語の定期的な補習の実施など評価されています。この中で、習熟度の低い生徒への施策に対する課題がクローズアップされています。一貫教育が初等部からに拡大され、中学部においても院内推薦生と受験を経て入学してくる生徒の両方を抱えています。個人の得意・不得意や学力の進捗度は、年を経るに従って差が広がっていくことはある意味当然の事柄です。この問題に対する解決策は一朝一夕には解決できない困難な課題ですが、一貫教育を考える上で大変重要です。高等部、大学へと継続する一貫教育をさらに良いものへと構築していくことが求められます。初等部でなされてきた豊かな情操教育に育まれた知性を伸ばし、将来の積み上げを可能にしていく土台をしっかりとつけていく中学部の教育にこれからも期待しています。

●きめ細かな生徒指導を実践している中学部ですが、学年が6クラスに増加したことや教員会議が隔週になったこと等、教員間のコミュニケーションが従来より取りづらい状態になってきている現状が伺えます。問題行動の後の指導過程など、今年度の検証を踏まえての改善が望まれます。

●キリスト教主義教育の実践においては、毎年高い評価を得ておられ、学院の精神的柱となる人間を育てていることに敬意を表します。その中で教員間における理念の共有に対する肯定的評価が低くなっていることに対しては、キリスト教学校教育同盟などが企画する研修会に積極的に参加者を募る、またそういった研修会に参加しやすい環境を整えるなどして、改善していくことが肝要かと存じます。伝統の合唱コンクールが変更されたことは、今後どのように進めていくか、建設的に考慮して、共学化した新しい中学部にふさわしいスタイルを確立させていってください。

●全体として、自己点検・評価が誠実になされ、今後の改善方策も的を射ており、改善への取り組みも概ね良好であることから、PDCAサイクルはうまく機能していると判断されます。なお、個別の評価項目へのコメントは以下のとおりです。

①教育課程・学習指導

●従来同様、生徒、保護者ともに学校への満足度、教育課程やその内容に関する評価が高い点は高く評価できます。学習指導に関しては、生徒の約8割が「授業は、さまざまな工夫が加えられていて分かりやすい」と肯定的評価をしていることから高く評価できます。高等部との連携については、昨年度に比べ教員の肯定的評価が増えている点(16.1%→33.3%)は評価できますが、全体的にみると更なる連携の強化が期待されます。

●生徒の多様化に伴う学力格差に関して、基礎学力の定着と発展内容の充実の両面に対応するために、補習や分割授業の実施などの取組みが実施されている点は評価でき、今後一層の充実が望まれます。しかし多忙化する学校環境にあって、現在の資源でこれらの問題に対応するには限界もあることから、この点に関しては何らかの人的・財政的支援が必要であると考えます。

②生徒指導

●生徒指導上の諸問題に関して、生徒、保護者の肯定的評価が概ね高いことは高く評価できます。基本的な生活習慣の確立や問題行動への対応に関しては、教員間で指導方針にブレがないことが基本となります。そのためにも教員間で情報交換、情報共有、共通理解がかかせません。この点からも、問題行動への対応に関する共通理解について、教員の肯定的評価がここ数年低下してきているのは気になるところです。また基本的な生活習慣の確立などの問題は、学校教育だけでなく家庭教育のあり方にも大きく左右されます。現在もそうした態勢は整っているとは思いますが、今後保護者との連携をより一層深め、協働してこれらの問題に当たる必要があるのではないかと考えます。

③保健管理

●健康診断・事後措置の実施、怪我、急病発生時の迅速な対応などについては、生徒、保護者、教員ともに肯定的な回答が多く高く評価されます。またこれは共学化による生徒数の増加も影響しているのですが、保健室の来室者数が共学化以前の約4倍になっており、特に心理的問題による来室者

が増えているというのは気がかりな点です。こうした問題に関しては、担任、学年主任、養護教諭、カウンセラーと保護者の連携が不可欠で、情報交換、情報共有、それぞれの立場での支援のあり方の検討など、各々が協働して取り組むことが求められます。現在もこうした態勢は整っているようですが、さらなる努力を期待します。

④保護者との連携

●PTAとの協議会の開催、学校行事などでの連携、クラス担任との面談に関して保護者からは概ね高い評価が示されており、保護者との連携がうまく進んでいることが窺え、大変評価できます。特にPTA集会などの全体集会の後には、学級担任を中心に必ずクラス単位で懇談の場を設けるなどきめ細かな配慮がなされている点は高く評価できます。今後もこうした対応が継続されることを期待します。

⑤キリスト教主義教育の実践

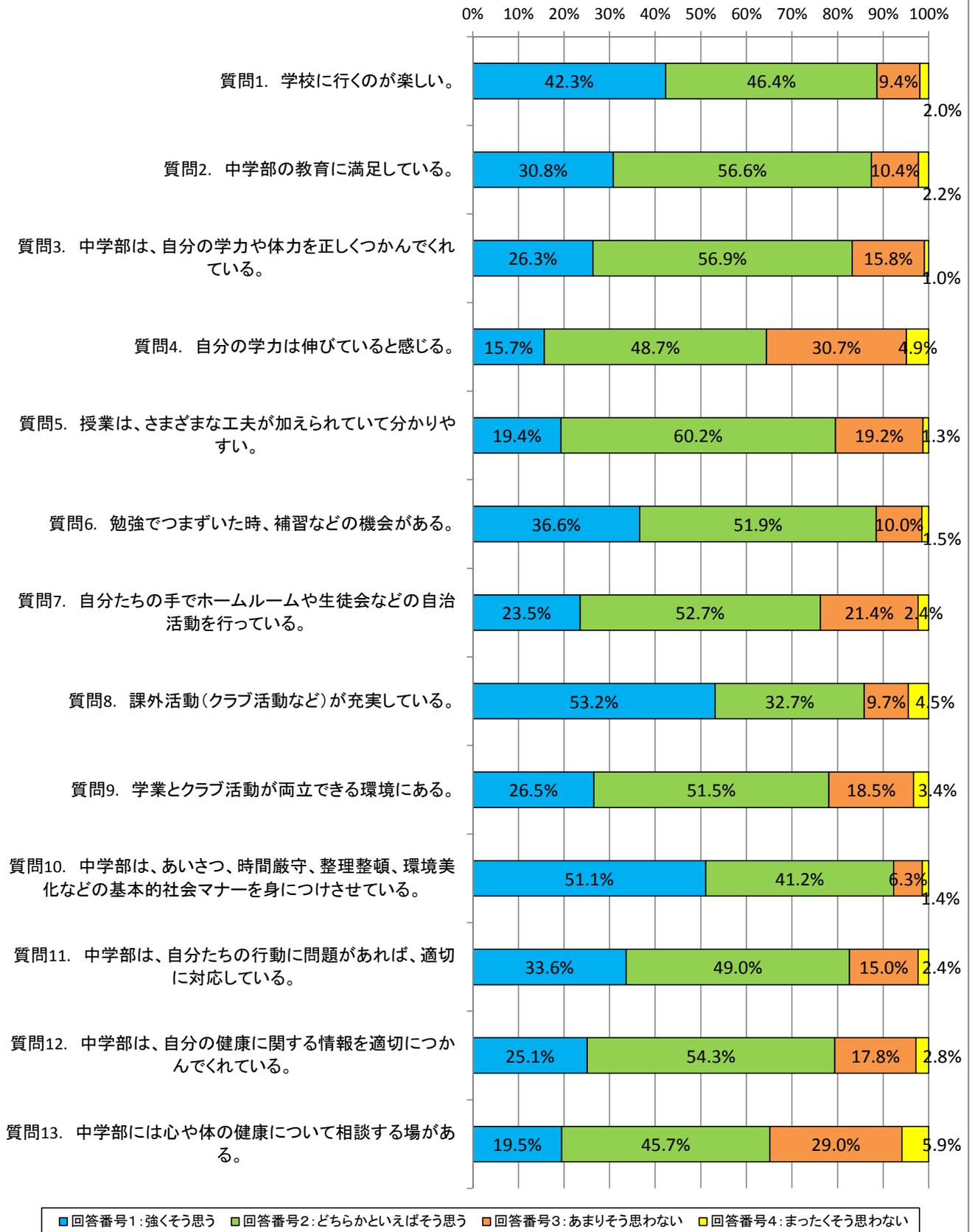
●アンケートの集計結果から、生徒、保護者に建学の精神であるキリスト教主義教育への理解が深められていることがよく分かり、高く評価できます。その背景として、生徒を主体とした多様な礼拝の工夫や設定、「PTA聖書を学ぶ会」などによる保護者への働きかけといった地道な努力が功を奏していることが考えられます。ただし気になる点は、キリスト教主義教育の理念の共有とそれに基づいた教育実践の項目で、教員の肯定的評価が昨年度に比べかなりの割合で低下していることです。共学化によるクラス増に伴い新しい教員が増えている現状から、今後教員間での更なる理念の共有とそれに基づいた教育実践が展開されることが期待されます。

⑥特色のある教育の実践

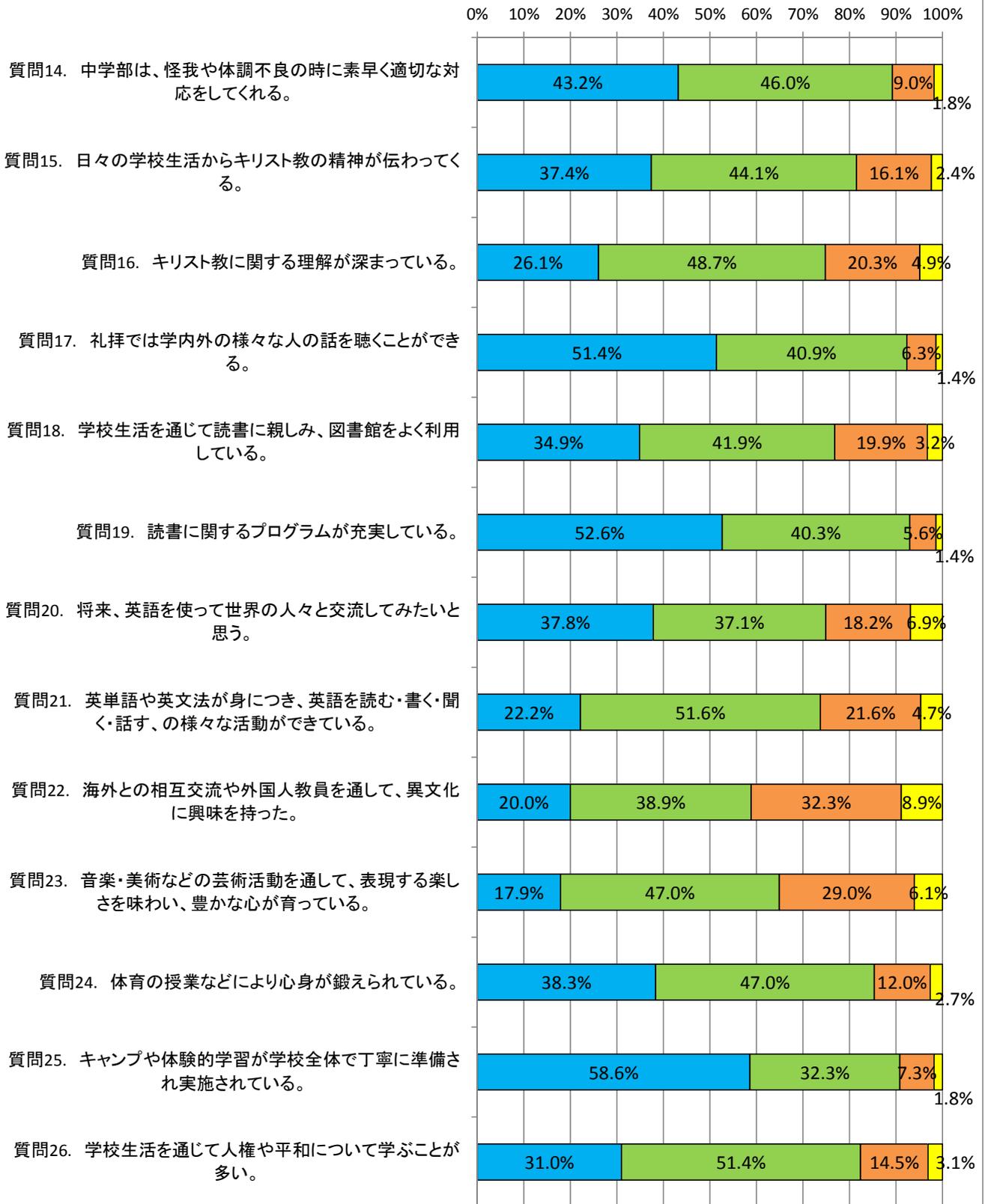
●礼拝、読書、スピーチコンテスト、青島キャンプや千刈キャンプといった体験学習など、中学部は従来から特色ある教育実践に取り組んでおり、こうした点は非常に高く評価できます。また他に類を見ない「読書科」については、活字ばなれが進む今日においてその意義は極めて大きいとともに、今求められているアクティブ・ラーニングを通じた教科横断的な汎用的能力の育成という面からも大いに期待されるところです。そのためには、従来から実施されている募集型のレポートや作文などへの積極的な応募やその指導はもとより、読書科の授業でのアクティブ・ラーニング（課題の発見と解決に向けて主体的・協働的に学ぶ学習）の展開が一つの鍵となるのではないかと考えます。しかし、こうした実践には他教科との連携も不可欠であり、今後教科横断的なテーマの下で、各教科と連携した形での課題解決的な学習や探究的な活動が導入、展開されていくことが期待されます。

2015 年度学校評価

2015年度 学校評価アンケート集計結果
 中学部・生徒 質問1～13 (回収率 99.0% 714人/721人中)

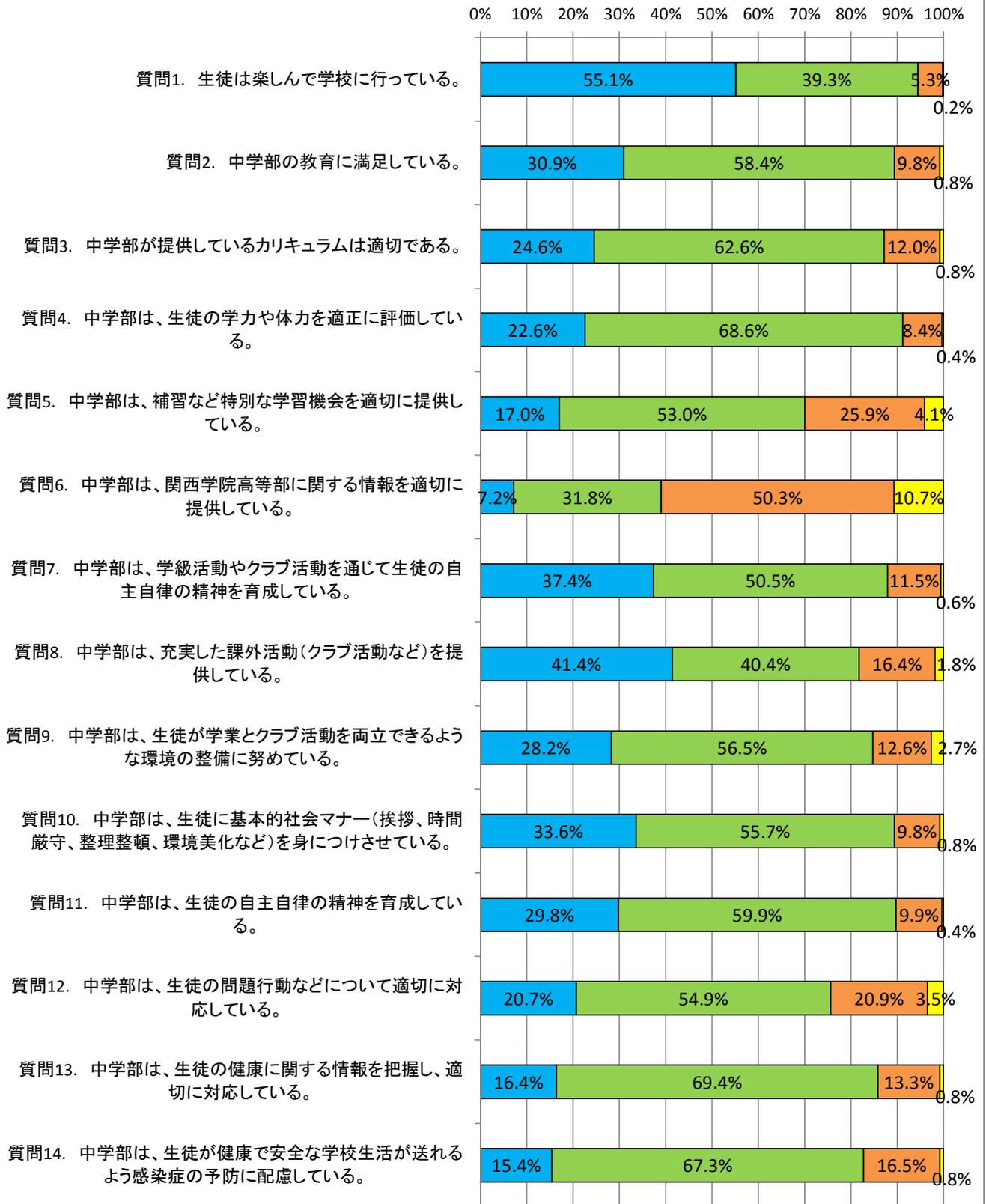


2015年度 学校評価アンケート集計結果
 中学部・生徒 質問14～26 (回収率 99.0% 714人/721人中)



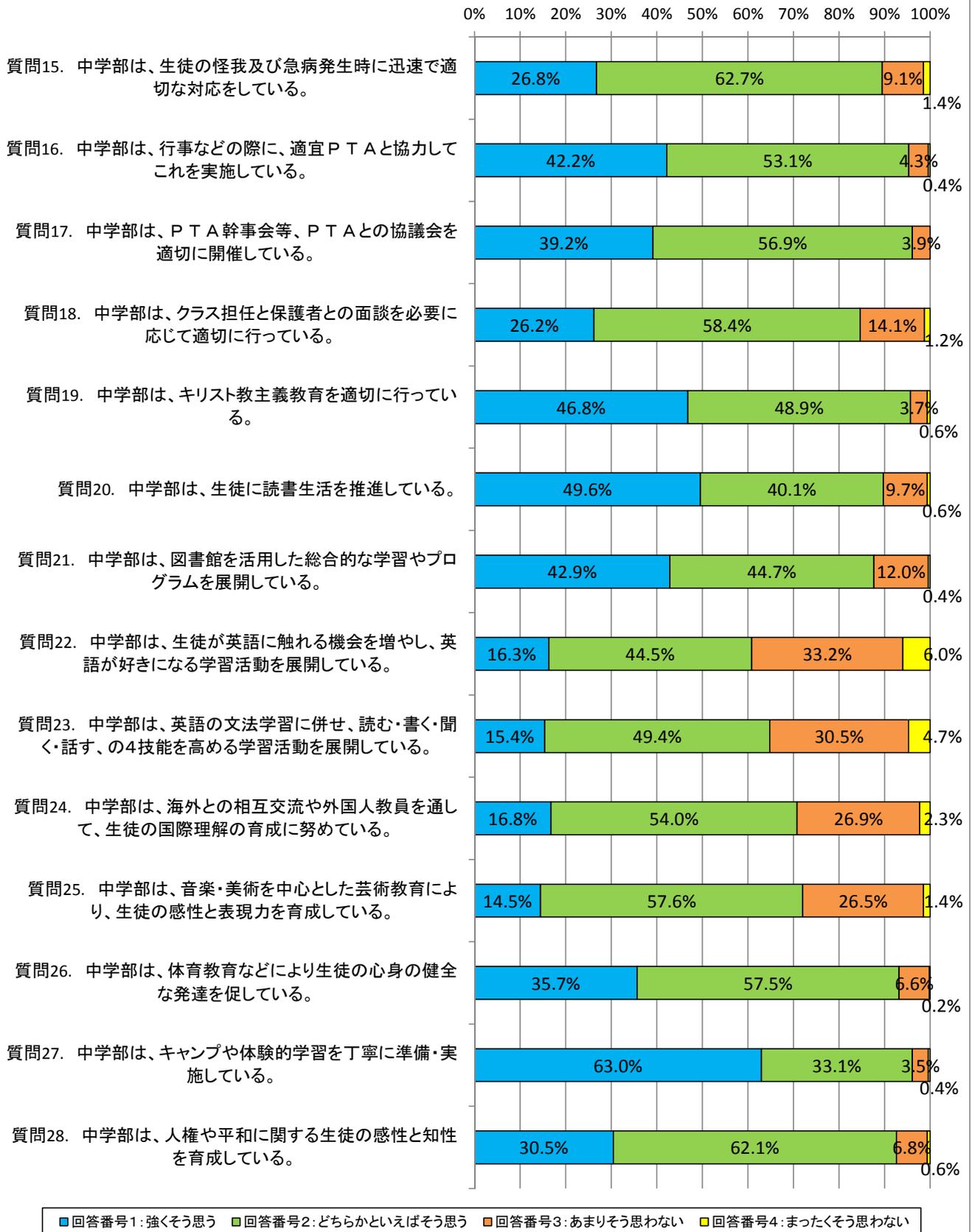
■ 回答番号1: 強く思う ■ 回答番号2: どちらかといえば思う ■ 回答番号3: あまりそう思わない ■ 回答番号4: まったくそう思わない

2015年度 学校評価アンケート集計結果
 中学部・保護者 質問1～14 (回収率 67.7% 488人/721人中)

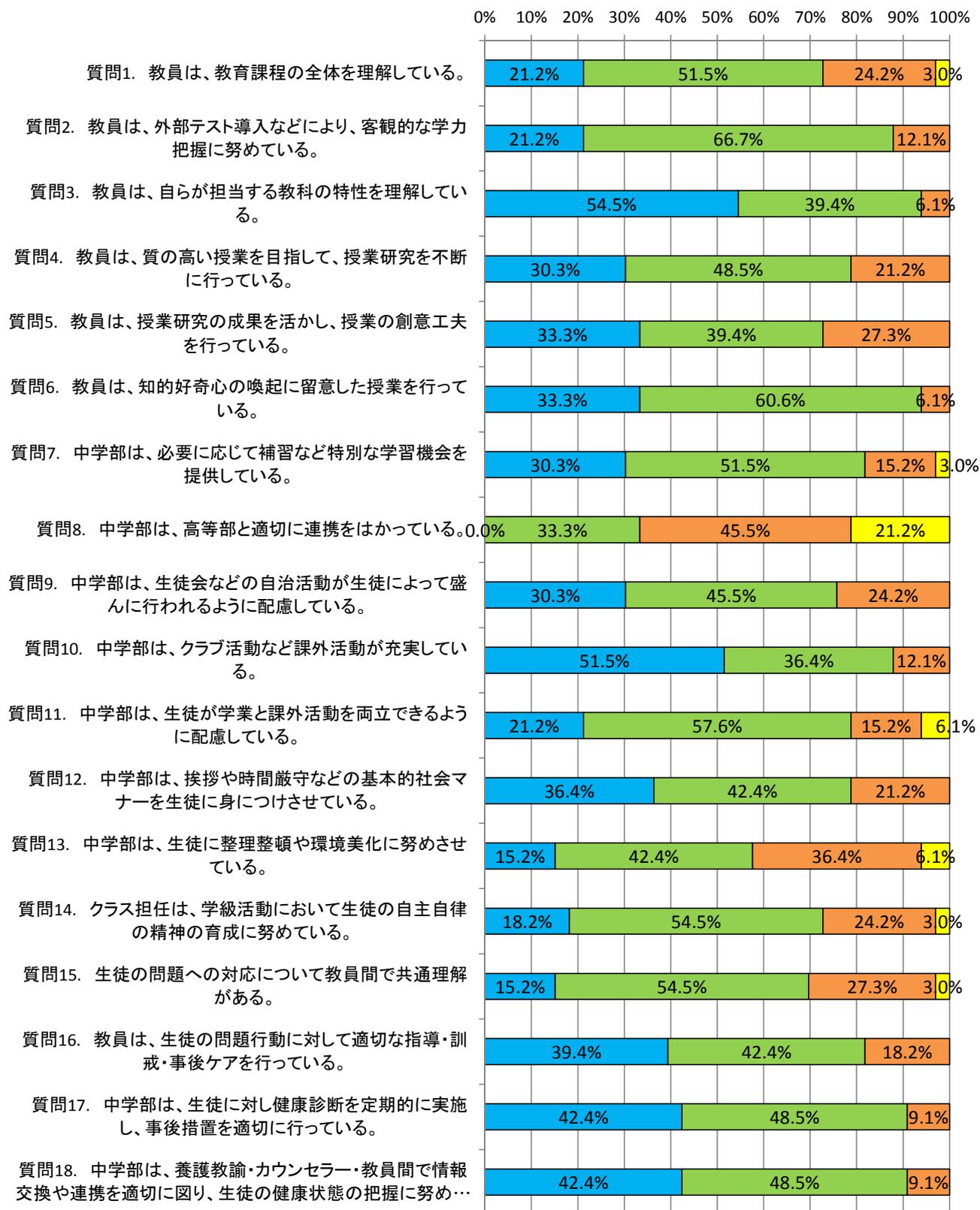


■ 回答番号1: 強く思う ■ 回答番号2: どちらかといえば思う ■ 回答番号3: あまりそう思わない ■ 回答番号4: まったくそう思わない

2015年度 学校評価アンケート集計結果
 中学部・保護者 質問15～28 (回収率 67.7% 488人/721人中)

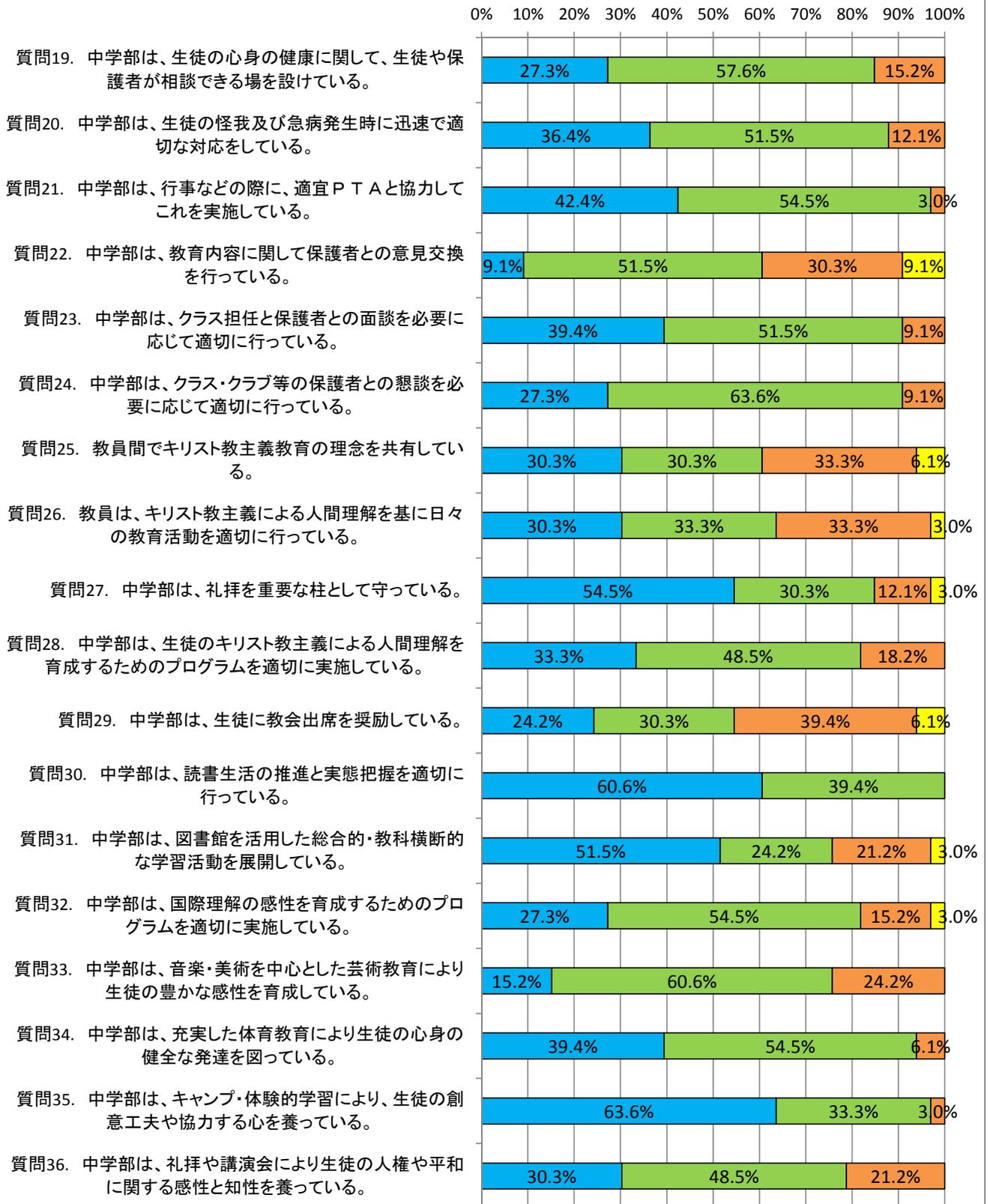


2015年度 学校評価アンケート集計結果
 中学部・教員 質問1～18 (回収率 91.7% 33人/36人中)



■ 回答番号1: 強く思う ■ 回答番号2: どちらかといえば思う ■ 回答番号3: あまりそう思わない ■ 回答番号4: まったくそう思わない

2015年度 学校評価アンケート集計結果
 中学部・教員 質問19～36 (回収率 91.7% 33人/36人中)



■ 回答番号1: 強く思う ■ 回答番号2: どちらかといえば思う ■ 回答番号3: あまりそう思わない ■ 回答番号4: まったくそう思わない